Medical and Pharmaceutical Society for WAKAN-YAKU

28E－06

気管支喘息患者に対する柴朴湯吸入療法の効果

西沢クリニック[1)]，京都府立医大附属脳・血管系老化研病態病理[2)]，滋賀医科大麻酔学[3)]，
大阪府立成人病センター研究所病理[4)]，大阪大院薬学研究科環境病因病態学[5)]
○西澤芳男[1),2),3)]，西澤恭子[4),5)]，伏木信次[2)]

【目的】

吸入 steroid 剤 BDP 半減時の sparing 効果を，double blind 法で検討した。即ち，BDP（800μg/日）吸入後 6 カ月以上経過し症状の安定している成人気管支喘息（ABA）患者（Pts）に，吸入 BDP 量半減時，柴朴湯（ST）吸入または pranlukast(P) 内服を併用し検討した。

【対象と方法】

BDP 吸入（800μg/日）中の ABAPts 58 例を乱数表で 3 群化し，4 週間の観察期間後，BDP 量を半減した。A 群（22例，男:女=14:8，平均年齢52.8±8.5歳）には ST500μg/ml×4ml×4 回/日吸入，B 群（19例，男:女=12:7，平均年齢48.7±11.8歳）にはP 2 回/日内服を併用した。C 群（17例，男:女=11:6，平均年齢46.5±13.6歳）は BDP 吸入量半減のみの control 群とした。24週間にわたり朝夕の peak flow（PEF）値・症状点数（SC）・治療点数（TS）等で sparing 効果を検討した。

【結果】

①朝夕の PEF 値は，C 群では BDP 半減後 6 ～ 8 週で，観察期間に比較し有意の低下を示した。A・B 群では有意の上昇を示し，A 群>B 群（P<0.01）の改善を示した。②TS・SC は，A 群・B 群で有意の改善，C 群では有意の悪化を認めた。この場合も共に A 群>B 群（P<0.01）の改善を認めた。③PEF の日内変動率は，各群共有意差が認められなかった。

【考察】

P は LT 受容体拮抗作用を示す。ST は各種炎症細胞の LT 産生分泌抑制に加え多種の薬理効果を持つ。ST 内服の問題点は，*in vitro* における薬理効果相当の抗 BA 濃度を，実際の病変局所で得られないことにある。しかし ST を吸入することにより *in vitro* 近似の濃度が病変局所で得られた。アスピリン喘息に対する柴朴湯吸入効果の検討から，LT の産生抑制以外の薬理効果も *in vitro* での効果とほぼ同一であった。以上から ST 吸入は気管支喘息に有効であることが示唆された。

NII-Electronic Library Service